



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## 砂漠を緑に変えた医師 引き継がれる遺志

### 中村哲さん考案の「かんがい」事業 日本政府支援で開始



干ばつの被害が続くアフガニスタンで 2019 年に銃撃されて亡くなった医師の中村哲さんが考案した、かんがいの手法を広める事業が日本政府の支援で始まることになりました。アフガニスタンではおとし、イスラム主義勢力タリバンが復権しましたが、長引く干ばつで農産物の収穫に影響が出て、深刻な食料不足に陥っています。

こうした中、日本政府の無償資金協力のもと JICA＝国際協力機構と FAO＝国連食糧農業機関が農業の振興をめざす取り組みを行うことになりました。

8 月 28 日、首都カブールで日本の岡田隆大使と、FAO の現地代表による署名式が行われ、岡田大使は「アフガニスタンの人たちが生活を再建できるように支援したい」と述べました。事業では、福岡市の NGO「ペシャワール会」の現地代表として、アフガニスタンの農地の再生に取り組んだ医師の中村哲さんが考案したかんがいの手法の普及を目指すことにしています。

この手法は現地の人が施設の維持や管理をしやすのが特徴で「ペシャワール会」の協力のもと東部クナール州で、かんがい施設の改修工事や現地の住民への研修活動を始める予定だということです。事業は、2023 年 8 月からはじまり、対象となる地域のおよそ 1 万 2000 人の生活の改善が期待されています。(NHK ニュース)



用水路の建設工事を行う現地の作業員たち



用水路の完成前(左)と完成後(右) アフガン東部



アフガニスタン東部に設置された  
中村さんの功績をたたえる碑

私たちが普段水を飲んだりトイレを流したりシャワーを浴びたりしていること、これらのことが当たり前ではない国や地域がまだまだ存在しています。中村さんは医師という立場で活動している際に、戦争で苦しむ子どもたちが泥水を飲んでいるところを多く目撃しました。そんなとき、「病気を治す前にまず、水が必要だ」と思い自ら井戸を掘り始めました。中村さんはまったく経験のないところから行動に移し、ついには用水路完成まで成し遂げました。しかしこれからたくさんの命を救う夢半ばに亡くなりました。現在中村さんの意志は日本政府に引き継がれさらなる支援が行われています。私もこのような活動や実態を他人事にせず社会の一員として何ができるのかを皆さんとともに考え学んでいきたいです。(四本)